

第4学年1組 学級活動（1）指導案

指導者 岩城 晴香

1 議題 「大なわチャレンジ」にちょう戦しよう

2 議題について

（1）児童の実態（男子13名 女子8名 計21名）

本学級には、学校生活を楽しみたいという前向きな気持ちをもって話合いや活動に取り組んでいる児童が多い。学級全体で遊ぶことを楽しみにしている児童も多く、休憩時間に仲よく遊ぶ姿が見られる。4年生から始まった委員会活動にも慣れてきて、少しずつ委員会での発言も増えてきた。5・6年生の姿から学校のために意見を出し合うことのよさを実感している。

これまで児童は、「4年1組よろしくねの会を開こう」「3・4年生スマイル大作戦をしよう」「4年生1学期がんばったねの会を開こう」などの議題で話合いを行ってきた。児童は、柱1の話合いの流れを把握して、提案理由を根拠に自分の意見を伝える力は身につけてきている。一方、柱2になると、より具体的な意見を求める話合いとなるため、実際の活動場面のイメージがもちにくくなり、話合いに参加しづらい児童も出てくる。また、意見を出し合うことに意識が集中することで、話合いの収束が難しいことも多い。そこで、柱2の「出し合う」の段階では、意見を出す際の視点を司会が始めに示すことで、話合いの筋道を明らかにするようにしている。1学期に「3・4年生スマイル大作戦をしよう」で3年生との交流を行った際には、相手を喜ばせるためにアイデアを出し合い、楽しい活動をすることに達成感を味わった児童も多くいた。一方で、準備を友達に任せてしまう児童や自分が楽しむことを優先させてしまう児童がいるという課題も見つかった。そこで、学級の一員として役割を果たすことや、相手のことを思い支え合って活動することを目標にして様々な活動に取り組んでいるところである。

（2）議題選定の理由

本議題は、学級の課題を改善し、よりよい学級にパワーアップさせたいという児童の思いが込められている。2学期のスタートにあたり、1学期の学級のふり返しを行った。そこで、時間を意識できず友達を待たせてしまうことや、学習中や学級活動の際に発言する人に偏りがあること、遊びの中で友達のことを考えず、一部の人だけが楽しんでいることなどの課題が明らかになった。児童はそれらの課題をもとに、学級みんなで取り組む目標と2学期の個人目標とを立てて意識して生活しているが、個々の頑張りだけでは学級全体の高まりにつながりにくいと感じている。そこで、みんなで力を合わせて一つのことに挑戦し、学級の力を高めたいという考えのもと、児童のこれまでの経験から、大縄跳びにチャレンジしようというアイデアが出された。議題選定に際して、他にも「ミニ運動会をしよう」や「クイズ大会をしよう」などの議題も出ていたが、得意な児童も苦手な児童もいる大縄跳びに挑戦することは、他の取組よりも、みんなで力を合わせることにつながり、同時に学級の力を高めることにもつながるという理由で今回の議題である『大なわチャレンジ』にちょう戦しようが選定された。自分のことだけでなく、友達のことや学級全体のこと意識が向けられるようになりつつある今、学級の課題改善に向けて全員で取り組むことは、児童のさらなる成長につながる意義ある活動であると考えられる。

（3）指導にあたって

指導にあたって、話合いを通して友達の話に反応しながら聞いたり、自分の思いをはっきりと伝えたりする「反応力」、活動を通して、課題解決のために力を合わせる「協働的課題解決力」に焦点を置き、学級の課題改善をめざしたい。みんなで協力し、学級の力をアップさせるために「レッツチャレンジプロジェクト」として生活場面、学習場面、友達との関わり場面の3つの場面で課題改善に向けた取組に挑戦する。その際、適宜ふり返しをしたり、それぞれの児童の困り感を共有したりすることで学級の課題を具体的場面で捉えられるようにしておく。本議題では3つのプロジェクトの中の友達との関わり場面に焦点をあて、学級みんなで取組の内容や工夫を決めていく。大縄跳びの苦手な児童もいるので、その思いに気づき、乗り越えるための工夫を一緒に考えるなど、自分の思いだけでなく、友達のことを考えた話合いになるようにしたい。柱1では、「大なわで何にチャレンジするか」について、柱2では「どのように取り組むか」について話し合う。いずれの柱においても、学級の力を高めるために必要な「教え合い・励ましといった多くの友達との関わりがあること」と「協力する場面があること」を合意形成に向かう決め手とする。柱2の「生かし合う」では、どこを焦点化して話し合えばより提案理由に近づくのか見定められないことが予想されるため、教師と共に詳しく話し合うべきところの優先順位を考え、焦点化する部分を決めていく。友達の話に反応しながら聞く「反応力」については、掲示物等での視覚的支援を行ったり、日頃の教科学習でも意識して行ったりすることで力を伸ばしていく。本時までには、計画委員会には、学級会個人ノート

をもとに事前にフロアの考えを把握させ、予想される意見を分類・整理した板書計画を立てるよう指導をする。なお、本時では柱2において、「アドバイスを増やすために」「記録をのばすために」という2つの視点でフロアが意見を出せるように、事前に司会と進め方の確認をしておく。合意形成の後、一人一人が自分の役割を最後まで果たし、声をかけ合い協力して活動に取り組むことによって、学級の一員として活動することの心地よさや喜びを感じ、協力してよりよい学級づくりに参画しようとする意欲が高まることを期待している。

3 第3学年及び第4学年の評価規準

多様な他者と協働するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度
<p>みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。</p> <p>意見の比べ方やまとめ方を理解し、問題を解決する方法を身に付けている。</p>	<p>楽しい学級生活をつくるために、課題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力して実践している。</p>	<p>楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったりふり返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。</p>

4 活動の経過

	月 日 (曜日)	活動の場	活動主体	活動の内容
事前	10月 5日 (月)	休憩時間	計画委員会	議題の選定
	10月 5日 (月)	帰りの会	計画委員会	学級会の予告・提案理由の確認
	10月 8日 (木)	かがやきタイム	全員	学級会個人ノートの記入
	10月 9日 (金)	朝の活動時間	計画委員会	学級会個人ノートの集計
	10月12日 (月)	休憩時間	計画委員会	話合いの打ち合わせ
	10月12日 (月)	かがやきタイム	全員	柱1 分かり合う
	10月16日 (金)	休憩時間	計画委員会	進行打ち合わせ
	10月20日 (火)	休憩時間	計画委員会	進行打ち合わせ
	10月22日 (木)	休憩時間	計画委員会	進行打ち合わせ
本時	10月23日 (金)	学級活動 (1)	全員	第8回学級会 「大なわチャレンジ」にちょう戦しよう
事後	10月26日 (月)	朝の会	計画委員会	役割分担
	10月27日 (火) ～12月24日 (水)	朝の活動時間 かがやきタイム	全員	取組期間・取組のふり返り (随時)

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

理由を明確にして考えを伝えたり、友達の意見を反応しながら聞いたりすることで、学級力をアップさせるための取組の内容や工夫を決めることができる。

(2) 児童の活動計画

第8回 学級会 個人ノート

議題		「大なわチャレンジ」にちょう戦しよう		10月23日(金) 2校時	
提案理由	4年1組は今「レッツチャレンジプロジェクト」で学習や生活の中でみんなで声をかけ合って、学級の力がアップするようにがんばっています。でも、まだ協力という面で課題もあります。そこで、みんなで大なわチャレンジについて内容や工夫を話し合いたいと思います。そうすることで、より協力し合えるクラスになると思って提案しました。			提案者	
話し合いのめあて	<ul style="list-style-type: none"> ・柱1…出された意見のよさを生かして話し合い、みんなで協力して取り組む活動の一つ決めよう。 ・柱2…活動を通して、今よりもっと学級の力をアップさせるための工夫を考えよう。 				
決まっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・10月30日(金)の体育で柱1で決まったものの記録をはかる。 ・その後は、11月と12月の最後の体育ではかる。 ・練習時間は、帰る前の時間。 				
役割	司会	黒板	黒板	司会	黒板
話し合いの順序					
1	はじめの言葉	2	計画委員会の紹介	3	議題の確認
4	提案理由の発表	5	話し合い	6	決まったことの発表
7	先生の話	8	終わりの言葉		
時間	話し合うこと	自分の考え・理由			
15分	柱1 大なわとびで 何にチャレンジするか	(例) ・全員跳び(連続で何回跳べたか) ・8の字縄跳び(連続で何回跳べたか) ・8の字縄跳び(3分の合計が何回か) ・ふえとび(3分で最高何人跳べたか)			
20分	柱2 どのように取り組むか(工夫)	(例) アドバイスを増やすために ・ミーティングをする。 ・動画をとって見合う。 ・自分から声かけをする。 ・新記録ができたなら万歳をする。 ・思いを自由にかけるボードを作る。 ・失敗した時にドンマイと言う。 記録をのばすために ・縄の真ん中で跳ぶ。(8の字縄跳び) ・回し手の近くを通過して出入りする。(8の字縄跳び) ・個人練習をする。(8の字縄跳び) ・みんなで声を出してリズムをとる。(大縄全員跳び) ・得意な人は回し手の近くで跳ぶ。(大縄全員跳び) ・目標を紙に書く。			

(3) 教師の指導計画

話し合い順序	指導上の留意点	めざす児童の姿と評価方法
1 はじめの言葉		
2 計画委員会の紹介 3 議題の確認 4 提案理由とめあての確認 決まっていること 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてがはっきり言えるように指導しておく。 提案理由のキーワードをおさえ、話し合いを進めていくように助言する。 	
5 話し合い (1) 柱1 大縄で何にチャレンジするか ・比べ合う ・決める	<ul style="list-style-type: none"> 事前の「分かり合う」の段階では、出ている意見に質問をし、全員が共通理解をしたうえで「比べ合う」の話し合いを行うことができるように指導する。 「決める」の段階でなかなか決定ができない場合には、今回は何の要素を決め手として大切にしたいのか投げかける。その際、提案理由を再確認して、話し合いの論点にずれが生じないようにする。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見の比べ方やまとめ方を理解している。 <p>〈観察〉</p>
(2) 柱2 どのように取り組むか (工夫) ・出し合う ・分かり合う ・生かし合う ・決める	<ul style="list-style-type: none"> 事前に計画委員会とどのような分類が予想されるか話し合い、スムーズに黒板がつけられるようにしておく。 「分かり合う」の段階では、出された意見に質問をして、友達の考えを理解したり、詳しくしたりできるようにする。 「生かし合う」の段階では、どこを優先的に話し合っておくべきかを決め、論点の整理を教師と一緒にやる。また、心配意見の改善、優先順位を付けるなど、実際の活動を見据えた話し合いになるように助言する。 「決める」の段階では、決めていいものと、そうでないものをはっきりと整理しまとめることができるように、事前に計画委員会に指導しておく。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 提案理由に沿って、団結力をアップさせる工夫を考え、理由などを比べ合いながら合意形成を図っている。 <p>〈観察〉</p>
6 決まったことの発表		
7 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> 提案理由を意識した発言をしたり、友達の意見を受け入れながら発言したりした児童を称賛する。また、計画委員会を労うとともに、今後の話し合い活動の中でがんばってほしいことを指導して、次時への意欲づけとする。 	
8 終わりの言葉		

6 事後指導

- 準備や活動の中で、児童が前向きに取り組む姿や協力して取り組む姿を見つけ、称賛していく。
- 活動後にふり返りを行い、今回の活動の達成感や学級の一員として活動することの喜びを共有するとともに、今後の活動に向けての意欲につなげる。